

C-58 大和高原都祁村における被服と生活（第2報）
奈良女大家政 ○奥平正代 中川早苗 片山陽次郎

目的 現代社会においては、都市的な生活様式や生活態度が、広く農村地域にまで影響を及ぼしている。しかし、野外踏査の結果から、都祁村においては、戦後の新生活運動の中で生れた「ムリ・ムダを省こう」という精神にのっとった規範があり、今日でも、衣服に対して拘束力をもつものが含まれる。都市ではほとんど見られないそれらの衣服規範に対して、村の人々がどのように考えているのか、なぜ、それらの規範が守り続けられているのかを解明するためにアンケート調査を行った。

方法 第1報の野外踏査に基づいて、都祁村の五大字に住む19才～69才の女性、約400人を無作為に抽出し、留め置き法によりアンケート調査を行った。調査期間は、昭和52年12月14日～23日までであり、回収率は、77.5%であった。

結果 この村には、いくつかの衣服規範があるが、どの規範に対しても支持的意見がかなり強かった。支持的意見を持つ人は、都市生活経験が全くないか、あっても少ない人や義理がたい人であり、それらの人は、専業・兼業を問わず農業を行っている人である。また収入の面では、収入の少ない人に支持的意見が強く、反対に、それらの規範に対して批判的意見を持つ人は、都市の人々の衣服に対してあこがれの気持ちを持つ若年令層にこの傾向が強い。これらの結果から考察すると、地理的に都市と隔り、現在もなお閉鎖的・排他的な農村においては、農業という共通の生業をもった村の人々の共同体意識が、今日まで規範を維持する力となっていると考えられる。